

賜でやっているケーブルテレビでございますけれども、それが西置賜の場合はないわけでありますので、このJANの役割というのはそこまで本来考えていかなければならないと。その可能性もあるというふうに思いますので、もう少し時間を置いて検討していくべきだというふうに考えております。

○蒲生光男委員長 17番、蒲生吉夫委員。

○17番 蒲生吉夫委員 考え方としてはよくわかりましたが、同じようにやっぱり心配が出てくるんですね。今ここに取付けた管理運営をJANの方をお願いをしているわけでしょ。それは随意契約なんですよ。だけでも、私らはそれは当たり前だと思っているんですよ。そんなことは当たり前と、JANにやってもらうのが一番いいでしょうと。だけど例えば別の事業、今、市長が言われたようなことをやるとしますね。すると金額ももっと大きくなるんだと思いますね。その場合になぜ随意契約なんだと、随意契約した場合ですよ、それがまた同じように出てくるんだと思いますね。

JANにしてもらいたいという、当然そうだと思います、市がそれぐらいの株式を保有していて、さっき言ったように損失補償といいながら、債務保証、丸抱えしてると同じですよ、理屈は。地場産なんかそうですから、商工担当してるね。その意味では、ただでも引き取ってくれないというのはまた大変だけでも、今の役員になっている人たちがただなら引き受けるぐらいのね、おれたちの力でここをきちっとやっぱり挽回するぞというぐらいの意気込みはやっぱり持ってもらった方が私はいいと思いますけどね。株式を放棄すればいいわけですね、県と市と、あと公的ところが。そういうふうに考えますけど、どうでしょうかね。

○蒲生光男委員長 蒲生吉夫委員の持ち時間が来ておりますので、答弁を簡略にお願いいたします。

内谷重治市長。

○内谷重治市長 随意契約でございますけれども、確かに2年前の事件については、その辺もご指摘はいただいておりますが、ただそういうケースはたくさんあるんじゃないかと。ですから、どこをもってJANと長井市で随意契約するのが悪かったのかということについてはもっともっと検証しなきゃいけないと。例えば、ご承知の置広などはけたが違う随意契約やっているわけですよ、億の随意契約をやっているんですね。そこと、じゃあ今回のJANはどうなんだと。あるいは米沢ですとデータシステム米沢(DSY)ですか、あそこなんか米沢の三セクですよ。それが米沢市のいわゆる電算業務を行っていただいているわけなんですけれども、やはり私は一方的な見方だけではないだろうというふうに思っておりますので、そこのところを踏まえながら検討しなければならないと思っています。

大道寺 信委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位3番、議席番号4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 予算総括質疑で通告してあります2点について質問させていただきませう。なるべく早く終わった方が皆さん喜んでもらえると思いますので、なるべく短い時間でやりたいというふうに思っております。よろしくお願ひしたいと思います。

まず、第1点目につきましては、人口復活大作戦についてというふうになっておりますが、これは正式に言うところ「3万人都市復活大作戦」というんでしょうか、市長がそういうふう命名されているんだと思いますけれども、それについて質問させていただきます。

9日の一般質問で蒲生光男議員並びに蒲生吉夫議員からこの問題について質問ありましたけれども、幾つかの点について確認の意味も含めまして質問させていただきますのでよろしくお願ひしたいと思います。

まず、目標とする人口規模はということなんです、市長からは答弁で、できればピーク時である3万7,000人とか、あるいは定住圏構想等考えれば4万人だとか、あるいは蒲生光男議員からは、「これまで大体3万3,000人と言っていたから3万3,000人、勝手にそう言った」と、こういう質問の趣旨ありましたけれども、そういう数字が上がっているんですけども、基本的に3万人都市ですから幅広いんだと思いますが、再度どの規模を目標にするのかということについてのお考えについて市長にお伺ひしたいと思います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

現在の長井市の総合計画については、平成25年度の最終年度に2万9,500人というふうに想定しています。しかし、それ以前の第1次、第2次、第3次までは全部5万人で想定しておりました。ただし、今回の第4次総合計画では、もう人口減少社会に入るんだからそんな現実味のない計画ではだめだということで、いわゆる国の人口の推計の数字というのがありますけど、それに合わせたということだと思っておりますが、私はこれはぜひ議論しなきゃいけないんじゃないかと。

私は何万人だと、今の段階で決めておりませんが、少なくともそのまま減少するんだと、じゃあ行政としての意思はないのかというふうにあえて私は思っております。ですから3万人がいいのか、3万3,000人がいいのかというのは、これからやはり議論して考えなければならないと。ただし、長井市の総合計画では2万9,500人、それに基づいて今私どものまちづくり基本

的にやっているわけですので、やはり議論して26年からの総合計画をどうするかという位置づけも考えなきゃいけないと思っています。

基本は、とにかく人口を減らさない、これ以上減らさない。ですから3万人は、まだ100人ちょっとぐらいしか足りない状況でありますので、100人前後ぐらいは少し努力すれば復活できるのかなというふうに思っているところです。

○蒲生光男委員長 4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 あえてお聞きしたのは、市長が答弁されたようにもう第4次基本計画では2万9,500人という、平成25年は。今までは人口ふえるという想定してるわけですけども、それをかじを切って減るんだと、これは日本全体の傾向ですから当たり前といえば当たり前なんですけども、そういうふうにかじ切って平成25年2万9,500人、それにさらに10年するともう2万4,000人だ、5,000人だという、そういうことでこれから計画やっていくことなわけですから、そういう意味でこの間の一般質問のやりとりを聞いてますと、3万7,000人出たり4万人出たり、いろいろ出ているもんですからね、あえてお聞きしたんです。

そういう意味では市長おっしゃったように、具体的なものはこれからだと、こうおっしゃるんだと思いますけれども、おっしゃるとおり実現不可能なものを市民の皆さんに打ち出してもなかなかそれは理解得られないわけでして、仮に3万7,000人なんていうと、これから7,000人もふやさなきゃいけないとなると、すばらしいすごい数字、これは大変できれば結構なわけですけども、そういう意味では9日の答弁では、「悲観論ではなくて楽観論で、もう前向きに考えるのだ」と、この気持ちはわかるんですけども、そこをあえて私は、実はお聞きをしたくて質問をさせていただきました。

当然、計画自体は26年以降どうするかと、2

+

万9,500人で走ってますから、平成26年以降どうするのだと、こういうことになると思うんですが、そことて実際に人口をふやすということで見直すのかどうかはわかりませんが、この1年かけてやるかどうかはわかりませんが、その辺についてはどうなんでしょうか。いわゆるプロジェクトをおつくりになるとかっというお話あるわけですが、その辺も含めてこれからの議論だと。例えばことし1年の議論とか、そういうふう理解してよろしいんでしょうか、市長にお伺いします。

○蒲生光男委員長 内容重治市長。

○内容重治市長 ことし1年の議論だというふうには思っておりません。まずはことし、今年度については庁内で検討したいと。目標何人というふうにするのはやはり第5次になるのか、総合計画、そういったときであろうと思いますので、ことしについてはまず庁内、それと人口幾らにするかということよりも、人口を維持するあるいはふやすためのいろいろなアイデアとか、具体的な方法をお持ちの方、ご指導いただく方なんかもいらっしゃると思いますので、そういった市民の方を含めた意見をいただきながら、まずは内部で検討していくというふうに思っているところです。

○蒲生光男委員長 4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 もともとこれは平成21年度の施政方針には全然載ってなかった事項でありましてね。これからだというのは、それはそれでわかりました。私は市長が言っていることと大体同じなんですけれども、むしろ私はやっぱり雇用の場があってこそやっぱり人口の維持とか増というのが図られるんだろうと思うんです。これはずっと前から申し上げてまいりました。

それから言うと、もう第一に一番問題は子供たちがこの地に残ることができるのかと、こういうふうに考えるんです。そこが一番重要だろ

うと思うんですが、現実論としては、実は私ご案内のとおり長井高校の今、体育文化関係の会長をさせていただいているんですけれども、進学校としては県内でも非常に評価が高くなっているわけです。それはそれでうれしいんですけれども、残念ながらいい大学に入れようと思っ一生懸命やって、大学卒業後就職先がこの地になれないということなんです。恐らく長井高校だけじゃない、南陽高校も含めて大学の進学というのは1年間で100人ぐらいいるんでしょうかね、長井市内から大学へ行くの。短大とか専門学校を入れればもっと多く進学しているわけです。そうすると、残念ながら地元に戻ってこれないと、こういう状況なんです。

私もそうなんです、市長も今、子供さんは大学お二人いらっしゃるはずなんです、多分そういう意味ではやっぱり同じ親としては帰ってきてほしいと、だれか一人でもいいから帰ってきてほしいという、そういう思いがあるんですけれども、残念ながら就職先がないと、やむを得ず県外就職、そうしますと残るのはやっぱり夫婦、親だけと。どんどん世帯は減って、人口は減っていくと、こういう話になってしまうわけなんです。

私も体育文化後援会で一生懸命子供たちの教育環境をよくしようとか、いろいろやっているわけなんですけれども、非常にじくじたる思いをしているんですね、そういう意味では。

ある人から言わせれば、「それは何も長井市だけでなく日本全体のことを考えれば、日本をこれから背負って立つ人材を育ててやるんだからいいんだ」と言う人もいますけれども、現実論としては当然ながらやっぱりこっちに来て、就職してうちにいてほしいというのが、普通であれば私も親ですからそうだというふうに思います。

かつては、9日の一般質問の中でも蒲生予算委員長も言っておられましたけども、かつては

私ご案内のとおり旧マルコンですね、ケミコン山形に所属しておりましたけれども、ここは研究部門を有してましたので、県外から大卒の方が入社されて、あるいは県内の高校卒でもやっぱり職場を求めて来られて、結果としてここに定住されたという方が今多くおられるんです。今、実際に文化協会だとか、いろんなそういう団体のところで率先して活躍しておられる方もそうなんです。岩手県だ、北海道だ、福島だというもう全国から集まってきていたわけですが、現在大卒を受け入れるというのは恐らく市役所ぐらい、長井市の職場では市役所ぐらい、あるいは広げれば県庁職員とか、かつては教員になるという方も多くおられましたけれども、今教員はご案内のとおりで非常に人が限られてきていますから、なかなか教員免許とっても県内に、あるいはこの地で教員できないという方がいっぱいいるという、こういう現象が出ているわけですし、そういう意味でいうとまず人口流出をいかに抑えるかというのが大きな課題ではないかと私は思うんですけれども、市長の考えをお伺いしたいと思います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大道寺委員がご指摘のとおり、まず雇用の場、働く場ということが基本だというふうに認識しております。ただし、やはりこういう時代になりますと、長井市にないとだめだということではやっぱりもう少しそういうふうに限定しないで、幅広く考える必要があるんだろうと思います。ということは、地域で連携して、市町村で連携して、あと県に頑張っただいて、例えば長井でしたら山形市とか米沢市は十分通えるわけでございますので、そういうところでもいいわけですね。もちろん長井市として働く場を積極的に創出するような取り組みをしなければいけないと思っておりますけれども、委員おっしゃるように学歴が高くなればなるほどこちらには戻れなくなるという、優秀な人と

いう言い方は語弊があるかもしれませんが、やっぱり自分でこういう仕事をしたい、ああいいう仕事をしたいというふうに求めれば求めるほどこちらには職種が限られてくるので厳しい現実があると思います。そういった意味では、まずは人口をふやすというよりも、いかにして減少を食い止めるか、転出を少なくするかという基本的な考え方が大切だと思います。

○蒲生光男委員長 4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 そこは私申し上げたいところの一番なんで、ぜひやっぱりいかに維持していくかと、当面ですね、これが一番重要だということだと思います。

それで、例えば大卒の職場なんていうお話を申し上げましたけれども、現実に長井の既存の企業でなかなか大卒を採用しないとは言わないですね、皆さんに言いますと。いつでもいいんだと言うんだけれども、来るような環境になっていないところが問題だと思いますけれども、その辺の実態についてはきょうはお聞きしませんけれども、市長言われたとおり、何も長井市だけでもなくても近隣という、後ほどまた同じような質問しますけれども、そういう考えでもいいと思いますけれども、ぜひここは官民一体、いわゆる企業の皆さんとも何とか大卒者でも戻ってくるようなことができないかということを努力をお願いしたいと思います。

教育界で今の奨学金を出すときに、これからは就職先もあつせんじゃないけども、そういうことをするというふうに決めたそうなんで、そういうことに私は非常に期待をしたい。ぜひ市としてもできる限りそういう帰ってこれるような職場づくりというものについて官民一体に取り組んでいただきたいということをまずとりあえず申し上げたいと思います。

次に、現在進めている施策の積み重ねが重要ではないかということですが、プロジェクトは庁内でまずいろいろ検討するということ

ですから、それはそれで私はいいと思いますけれども、基本は今進めている施策の成果を早く出していくということだと思います。

市長は、いわゆる産業振興含めて、今の経済再生戦略会議というものを立ち上げて、ことしはシンポジウムをやったということで、ことしじゅうに具体的なものをまとめて来年からというお話を何度もしておられます。さらにはそれをできるだけ前倒しして進めるとか、あるいは先ほどもありましたけれども、子育て支援ということで保育計画、これも一つのいわゆる少子化に対する対応策ということになりますと、これは当然人口をいかにふやすかという一つの施策ですし、そういう意味では私はむしろプロジェクトも当然結構ですけれども、そういうものをいかに早くするかという、この積み重ねだと思います。そこにはないものというのが、9日のやりとりの中では住宅問題という新たな問題ですね、これをどうするかということは、そこはそこで新たな組織が必要であれば検討すると、こういうふうに整理して進める必要があるのではないかと、こういうふうに思うんですけども、それについての見解についてお伺いしたいと思います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 委員がおっしゃるように、やっぱり今の施策の積み重ねというのはこれは基本で非常に重要だと思います。経済再生戦略会議につきましては、活力がちょっと失われつつある経済の活性化を図るために19年から取り組んでまいりまして、来年度というふうにしておりますが、今年度中に具体的なものをまとめまして、来年度の予算に反映させるために10月ぐらいまでにまとめたいということが基本でありますけれども、ただ昨年度のいろんな市民からの議論、意見の中で、すぐにでもできるもの、あるいはことし少し予算をつければできるものもありますので、そういったものは今年度中にやっ

ぱり前倒ししてすべきだと思っております。

それから、子育て支援とか教育とか、そういったことについては、午前中も蒲生吉夫委員の方からもいろいろ質問ございましたけども、例えば児童センターの保護者の皆さんとの懇談の議事録なんかを見ますと、やはりどここのまちはこういうことをやっているから長井市でもしてほしい、ここは例えば小国ではこれバス無料だから長井でもしてほしい、そういう要望が非常に多いです。ですから、早い話が全部無料にすればいいんでしょう。例えば、保育園も児童センターも幼稚園も。ですから義務教育化ですよね、そういうことを保護者は極端な話求めているというのはわかります。ですから、それにどれだけ近づけていけるか、それと医療の方も中学生以下は全部無料だと、これ一番求めているわけですよ。それにどれだけ近づけていけるか、これはもう財政も含めての話でございますので、それらについてはやっぱりできるだけ行革を進めながら、また産業の活性化を図ることによってそういう財源をつくるということが大切だと思っております。

あともう一方で、先ほどありました住宅政策、これは実はまち・住まい整備室ということでことしつくった新しいセクションで中心市街地の活性化も含めて検討すべきだなというふうに思っておりますし、例えば子育て支援室というのは、先ほど申し上げたいいわゆる子育て支援策等々についてトータル的に考えられると、トータル的に政策を調整できると、そういうセクションで考えたところでございます。

あと、昨年からつくっている地域戦略室というのは、そういった意味では市全体でどうしていくかということ調整するセクションということでつくったわけでございます。そのほかにも室等々ございます。ただ、産業関係の方は機構改革でいえば商工とか農林とか農業委員会とか、そういったところについては、まずことし

じゃなくて次の段階でどういう形が一番いいのか検討するというのでやってこなかったんですけども、大道寺委員おっしゃるように政策の積み重ねだということは私も思っておりますので、少しずつそんなことでそれぞれの立場から、そして総合的にまとめていかなきゃいけないというふうに思っています。

○蒲生光男委員長 4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 例えばプロジェクトという新たに作るという印象ありましてね、私はそうじゃなくて今せっかくいろんなことをやっていることというのは、結果として人口をいかにふやすかというのと一緒なんです。そこはやっぱり足りないものはもちろんそうしていくということなんですけども、今やっていることをいかに早く成果を上げるかと、そういうことでやっぱり取り組んでいただく必要があるんじゃないかと思えます。

さらに私は、長井市が誇れるものというのをもう一度整理する、あるいはPRしていくということが必要ではないかと思うんです。先ほど旧マルコンの例を申し上げたんですけども、実は現在も、今、ケミコン山形については日本ケミコンという親会社から出向者相当いるんですよ、数十人おられるんです。アパートを借りたりして住んでおられるんですけども、その方の中で数人、実は長井に住宅を建てられまして住んでおられます。私は何で、その方転勤ですからあちこち移っているわけですけども、ある人は別のところにうちあるんだけどもう一軒建てたという人もいます。それは建てられる余裕がある人なんだろうけども、何でじゃあ長井に建てられましたかということをお聞きしたら、「一番は子供の教育だ」と言うんですよ。子供の教育、どういうことというふうに言いますと、もちろんこれまで転勤ですからほかのところへ行って学校に入ったり幼稚園だったり、ここの長井の学校というのはすごくしっか

りと親身になってやってくると、そういうところだと。子供たちも高校までは長井でいたいということがあって、それが一番で建てたと。もちろん自然豊かで住みやすいとかいろんな理由あるんですけども、そこが一番だという話を数人建てられた方、全部そうです、そういう方です。非常にそういう意味では、これ教育長は非常に喜ぶんだと思うんですけど、長井の教育ってすばらしいということ、長井にいる人はなかなかそうは言わないんですけども、外から来たらそういうふうに見てくれるんです。本当にそれだけ親身になってやってくれてると。うれしいことなんです。これ。

私は定住、若い人にここに来ていただきたいって、もちろん住宅を安いやつをつくるって、提供するっていうのも必要なんですけども、やっぱりそういうところなんです。どういふところがいいんだというところ、そういうところをやっぱりもう一度市の特徴といいますか、住みやすいんだというのはいろんな住みやすさってあるんだけど、そういうところをもう一度整理して大いにPRすることが必要ではないかと思うんですが、それについてはいかがでしょうか。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 大道寺委員のおっしゃるとおりだと私は思っております。そのプロジェクトを立ち上げるというのは、そういうことを議論したい。ですから、基本的には今それぞれの、役所内ですけども、立場立場でこれからの長井のことを一生懸命進めているわけでございますけども、それぞれただ自分のセクションでしか考えておりませんので、それをいろんな立場の人が集まって、まず役所内で柱はこういうことにしようとか、あるいは大道寺委員おっしゃるようにPRが弱いとか、そういったところを議論する必要があるんじゃないかということで、まずプロジェクトを立ち上げるということでござ

+

いまして、大道寺委員と全く同じ考えでございます。

○蒲生光男委員長 4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 ぜひそういうことで、もう一度私たち自身が長井のよさというものを、来ていただいて定住していただくためにどういいういところなんだということをもう一度やっばりきちっと把握しながら、機会あればどんどんそういうことをPRしていくということが必要ではないかという一例だというふうに私思いますので、その辺も少し取り組んでいただければと思います。

3点目ですけれども、近隣との人の奪い合いではなく、連携して進めるべきではないかと、こういうふうに申し上げました。安価で優良な住宅を供給することによって人口増を図りたい、あるいは人口減をしないようにしたいと、こういうお話でありましたけれども、近隣との人の奪い合いというのは、日本全体が人口が減っていくというときに、みんな一緒ですよ。飯豊も町長さんに言わせると、「やっぱり人減ってどうしようもないからとにかく人をふやしたい」って言いますし、白鷹の町長さんのところへ行っても、あそこは今、安い住宅3万5,000円ぐらいでしようかね、町営住宅何棟か建てられてやってまして、そこを競ってこういうことをというふうなことでは、どうもそれはちょっと違うんじゃないかと、こういうふうに思うんです。

さっき市長も答弁されましたけどね、結局じゃあ住宅団地でも何でもいいんだけど、そういうのをつくりましたと。さあとと言っても、その辺のこういう当然この辺の近辺から人が来るだけで、それは奪い合いしているしかないんだと思うんです。なかなか県外から来てくれる、さっき言ったようにすばらしい企業が、自動車関連の企業がどんと来てというんだったら別なんだけど、なかなかそうはいかないんじゃないかというふうに思います。

そもそも人口が減るという前提で近隣自治体との合併を模索したということなんですね、ずっと昨年までの取り組みでは。そういうところからすれば、むしろ先を見越せば近隣自治体とは連携して地域全体のあり方というところを十分議論していろんな施策を進めなきゃいけないんじゃないかと、住宅も含めてそういうふう思うんです。

きょうの新聞を見ましたら、地方制度調査会ですね、諮問機関である、それは来年3月のいわゆる合併特例法が期限切れるのは、もうそれ以上はやらないと、こういう答申されたというふうに新聞記事が出ていました。しかし、小規模自治体がまた残るということも含めて、それらに対する支援をどうするか、あるいは自主努力で合併する自治体に対しての新たな支援策というか、そういうものも何か考えたいというような記事も載ってましたけれども、いずれ来年合併特例法が切れても何らかの国はそういう施策は出してくると思うんです。そういうところからすれば、もちろん人口をふやすという努力は皆さんしてるわけですから、それはそれとして、ここ当面はやっぱり全体としては減ると、こういう前提でいかなきゃなりませんから、そうしますといずれ合併という一つのものをにらみながら、今どんどん連携をしていかなきゃいけないんじゃないかと思うんです。

国も言っているように、これからはもう少し広域連携だと、これは市長も言っておられますけれども、そういう前提で例えば産業振興なんて前から私思っているんですけども、産業振興、長井市だけやるというんじゃないくて、ここ経済圏一緒ですから、やっぱりそこは例えば難しいけど企業誘致なり何かの振興策、そこは近隣って、飯豊、白鷹、一緒にやりましょうやと、そこにお金も使って一緒にやりましょうやというようにこの取り組みで相乗効果といいますか、そういうのを上げていくと、こういう取り組み

がやっぱり私は必要なんでないかと、こういうふうに思うんですけども、それについてのお考えをお聞きをしたいと思います。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

この件については、大道寺議員と一部同じ考えなんですけど、一部違います。それは、住宅政策的なところがございますけども、実は私が見ている見方とちょっと大道寺委員の見方はちょっと違うと。

私が去年、おとしあたりからいろんな団体と懇談会を進めている中で、特に建築業、大工、左官とか建具屋さんの方からの要望は、実は長井の人たち、若い人たちがうちを建てたいと、あるいはいろんなつき合いで隣の飯豊町とか白鷹町で長井に家を建てたいという人がいっぱいいるんだと。しかし、長井のまちなかは土地が高くて、しかもまとまった用地がないのでやっぱりあきらめて長井の人が南陽に行ったり山形に行ったりしてるということがいっぱいあるんだぞという話を聞いているからです。

あと、実際私も見て、確かに一番人気あるのは中央地区ですから、用地はいっぱいあるんですよ、民間の。ただ、買う人の立場になって考えるとわかるんですけども、例えば古い町並みの中に2区画、3区画新たに土地がありますから建てませんかと言われても、不安なんです。そもそもその辺に住んでいる人だったらいいんですけども、例えば豊田に住んでいる人が清水町に住むと。土地があるからそこにうちを建てるといって、やっぱり同じ市内に住んでいても不安だということがありますし、あとこれから住宅を建てるときに、冬の除雪体制はどうなんだろうとか、あるいは周りの環境どうなんだろうとか、そういったことというのは非常に一生の買い物ですから、住宅というのは。そういう意味では、長井は住宅政策がここのところ具体的なものなかったんで、大分市街から出て

おります。

それと9日の蒲生光男委員長の一般質問でもありましたけども、例えば周りの市町村の方で少しでもやっぱり若い人を定着させようとしてだと思ってるんですけど、ほかから持ってこようということやってんじゃないでしょうけども、いい住宅で、安価な住宅で、あるいは安い家賃でいい条件で住めるといって、長井の人でもそっちに行ってしまう、そういう例がついこの間もお聞きしたりもしていましたので、労働者の奪い合いじゃないんですけども、まずは逃げないようにするということが私は非常に重要な政策だろうというふうに思っています。

あと、一方で企業活動とか、特に製造業なんかは市町村の垣根なんてなくて世界を相手にして仕事をなさっているわけですから、そういう意味では連携しながらやっていく必要がもちろんあると思います。市町村合併についても、私はそもそも今回は断念だったんですけども、置賜3市5町でやるべきだと、非常に強い信念を持って進めたいと思っておりました。残念な結果だったわけですけども、あと南陽との2市2町についても、南陽とのいろんなあつれきはあるでしょうけども、将来的にはあそこに西置賜の例えば飯豊が入れば、長井としてもいろんな将来のまちづくり展望ができるんじゃないかということも頑張ってきたところですけども、結果としては残念ながら合併はできなかったと。

これから定住自立圏構想ということで国の方は進めてくると思います。これは6月の5日に県の市町村支援課の方から、今回経済活性化絡みの補正の中で定住自立圏等民間投資促進交付金制度というのが新たに出るんだそうです。それは対象は定住自立圏というのは頭に、冠にあるように中心市なんです。山形県の場合、中心市というのは山形、米沢、鶴岡、酒田、新庄、東根なんです。人口4万人以上のところはもつとあるんですね。例えば天童とかなんかもあり

+

ますが、そういうところはならない。

一方で、それに準ずる市として一つだけあるんです、それが長井なんですね。これはいわゆる昼間人口と夜間人口で、昼間人口が多いと。1.1以上だということで長井になったということでもありますので、そういった意味ではやっぱり拠点性があるんですね。これはマルコン電子というのが相当な影響を持ったと思います。ですから、そういう意味では中心市としていろんな連携も近隣の市町村と連携を図りながらやっていかなきゃいけないと思いますし、この準ずる市として長井市が挙げているのは、エリアは白鷹と飯豊ということで準ずる市というふうになっておりますので、委員おっしゃるように連携してこれから取り組んでいかなきゃいけないと思います。

○蒲生光男委員長 4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 この辺はまだいろいろ詰めなきゃいけない問題だと思いますので、また改めてさせていただきたいと思いますが、住宅の問題について確かにおっしゃるとおりだと思いますけれども、ただこれどうやってやるかという難しい問題ですね。市でその土地を求めてやるかというのと、この間市長は「企業会計で」というお話がありましたけども、そもそも土地開発公社がああいうことになったというのはいろいろ理由があるわけですけど、そういうのと同じことになっちゃうという心配もあるわけですし、その辺のところを少しもうちょっと、私自身もこれからはもっと勉強しますが、確かに中心のところが高いといいながら、例えば郡部ちょっと私のとこの地区なんか行きますと、若い人がやっぱり土地安いということで、学校の近くにうちがどんどん建つんですよ。そういうのも例としてあるんです。だからその辺は全体として考えたときにどうだということも含めて、あるいは市がどこまで行政がかかわれるかということも含めて、やっぱりもう少し検討い

ただきたいというふうに思います。改めてまたこの問題については取り上げさせていただきたいと思います。

時間の関係もありますので、大きな2点目のレインボープランの関係についてお聞きをいたします。

第1点目は、今後の展開の関係なんですけど、私はレインボープランの果たしてきた役割というのは大変大きいということは今さら言うまでもないと思います。当然私たちが行政視察に行ったときには、やっぱり長井市といえばレインボープランと、こういうことで言われるほど高い評価を受けているわけですが、今後の展開をどのようにお考えかということについてですけども、結局今、生ごみ処理の対象というのは中央地区だけなんですよね。基本的にはどうなんでしょう、当初はやっぱり市内全部という、郡部も含めてやるということだったと思うんですけども、その辺について拡大するのとかどうかという基本的なところについてまずお聞きをしたいと思います。市長をお願いします。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

施設、コンポストセンターそのものは稼働率7割でありますので、もう少し余裕はあると思います。ただ、これ以前にも蒲生吉夫委員の方からもご質問いただいてお答えしましたように、例えば郡部の方には農家が多いということが1点。2点目は、密集している地域もちろんあるんですが、割と散村の状況のところもあるということ。あと、農家があることから、自分でそれぞれ処理されている方もいらっしゃる、いわゆる我々でいえば肥塚というやつですね、ということがあると。一方で、コスト的には中央地区みたいにならぬように例えば町内の何班でここに収集ということで、割とみんな出しやすい。ところが郡部ですとかなり離れていますので、やっぱり小まめに収集箇所を置かなければいけないとい

うこともあって、収集のコストが非常にかかる
ということの課題があります。

そんなことで、中央地区以外で進めるとした
ら、やはり成田地区とか五十川地区については
可能かと思いますが、今のコンポストセンター
の能力もあって、それ以上は新たにコンポスト
センターを増築するとかしない以上は非常に難
しいというふうに思いますので、むしろこれか
らの展開としてはレインボープランの循環の考
え方を中央地区の人はみずから参加しているの
で大分理解していますが、残念ながら参加して
いない市民の皆様はその部分よくわかってない
ということがありますので、それをどういふ
うにして市民一人一人のものにするかという
ことがまず基本ではないかと思っています。

○蒲生光男委員長 4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 そうだと思いますね、
7割ということですが、それが拡大でき
る、100%すればということでしょうけどいろ
いろありますから、現実にはこれは全域するには
もっとああいふコンポストセンターをもう一つ
つくるみたいな規模になってしまいますので、
なかなか難しいんだと思います。今おっしゃ
ったように、郡部は今、生ごみの処理というの
は恐らく燃えるごみ、レインボープランに参加
しないところは燃えるごみで出すと。それから自
家処理ですね、俗に言う肥塚でやると。ただ、
肥塚というのはこれ基本的には野積み禁止なん
ですよ、あれ。あれ本当は何かかけるとかあ
るいは屋根つけるとかってあれしないとけな
いんだね、厳密に言うとコンポスターか。厳密
に言うと違法みたいになるんだそうです、実際
はそうなってませんけど。

さらには、最近いわゆるEM菌による活動し
ているグループあります。そういう意味でい
ますと、一番の問題はやっぱりレインボー
プランというのは確かにそれは市外、日本の中
でも非常に評判高いわけですけど、実際にごみ出

ている人は非常にわかるんだけど、出してない
人はなかなかわからないんですよ。しかも、行
政区から出しているお金って結構かかっている
んですね、あれ。多分レインボープラン推進協
議会の業務委託しましたからちょっと今変わる
んだと思いますけど、6,000万円とか8,000万円
とかかかるんですかね、実質的には、それに対
してお金は、コストかかっているんです。これ
はだから長井市全体の取り組みと言われてもな
かなかやってないところはぴんとこない、こう
いう問題があるんだと思うんですよ。だから逆
に言うと、郡部でどういふうにレインボー
プランという一つの理念といひますか、いわゆる
循環という一つの理念を生かしてどういふ
取り組みをするかというのは、非常に今市長もお
っしゃったように大事なことだと思うんですけ
ども、さあでも具体的にあるかという、私もよ
くわかりません。さっき言ったEMというの
は一つの手段としてはいいと今やってるグル
ープもあるんですけども、その辺についてじゃあ
具体的にどうするかということなんですけど、
これからどういふ取り組みというよりも、どう
いふ考え方でそれを進めていくかと。現段階
で考えがあればお聞きをしたいと思ひます。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 現段階では、まずは現
實的に可能な成田、五十川地区で協力、参加
したいということであれば検討しなければなら
ないと思ひます。ただ、コンポストを使う
側のこともありますけども、レインボー
プランのブランド化、レインボーの里から
という新しいブランドの話もありますので、
それなりに量は必要とな
ると思ひますので、そういった意味では
コンポストセンターを最大限に稼働させて
いきたいと思ひます。

あと2点目は、いわゆる参加できない郡部
については、ほかの地区については、例
えば自分たちが地区ごとに例えば50戸
ぐらいで独自のそ

+

ういった生ごみを肥料に、堆肥にかえるようないろんな、何というんでしょうか機器がございしますので、そういったものに対して例えば自主的にやったものに対して交付金をやるとか、そういったことができないのかなということは検討しなきゃいけません。ただし、市の方で全部備えて、それで参加してくださいというふうなことは、ちょっとコストがかかり過ぎてできないんじゃないかなというふうに思っていて、あとはやっぱり啓蒙といいますか、コンポストセンター見たことのない市民の方もたくさんいらっしゃると思いますので、仕組みを理解していただけるような研修とか講話を聞く機会を地区公民館なりにも協力いただいて設けていく方法もあるんじゃないかなと思っています。

○蒲生光男委員長 4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 確かにいろんな講演とかなんかといってもなかなか聞きに来ない時代ですから、実際にやっていいものだというふうになればそれでいいと思いますし、やっぱりどういう形であろうが補助なり支援なりをどういう格好でやっているかと、そういう仕組みだと思いうんですね。こういうことをやっていますからこういう支援してください、こういう補助してくださいというところもやっぱり積極的にやっていくと。あとは皆さんでやるんですから、そういう形でもいいのではないかと思います、いろんな取り組み個々にありますので、ぜひそれについては検討いただきたいと思います。

2つ目は、コンポストセンターの老朽化の関係なんです、建屋はまだ大きな修繕等必要のないのかもしれませんが、設備の補修はこのところ毎年度に補修費というのは出ているんだと思います。平成20年度補正の地域活性化・生活対策臨時交付金事業でも224万4,000円計上されているわけです。補修のうちで済むうちはいいんですけども、いずれ設備の更新と、こういうことが必要になるのではないかと思います。

ます。まず、現在今の設備ですね、どの程度、何年ぐらいもつと見られておられるのかについて、わかる範囲で結構ですので農林課長にお聞きをしたいと思います。

○蒲生光男委員長 遠藤正明農林課長。

○遠藤正明農林課長 お答えいたします。

コンポストセンターの老朽化に対する対応でございすけれども、平成20年度につきましては当初の維持修繕費330万円に加えまして、地域活性化の交付金を財源といたしまして620万8,000円を増額補正していただいていると。そのうち224万4,000円につきまして繰り越しているわけでありす。

そういった補正によりまして、緊急を要する箇所の修繕を行ってきているところであります。具体的に二、三例を挙げまして申し上げますと、一次発酵槽の回転式攪拌装置のへらがさびでぼろぼろになったために交換しております。さらにプラスチック等異物除去装置についてであります、やはりぼろぼろになりましたので取りかえ等、交換しやすい構造に変えるなどの実施をしてきているところであります。さらにまた、21年度でありますけれども、同じく地域活性化の交付金を財源といたしまして、工事請負費に2,047万5,000円を計上いたしまして、コンピューター制御による中央操作盤の改修、そして一次発酵槽天井の改修工事を実施する予定であります。

これで緊急を要する箇所につきましては残り2カ所ほどございすが、これにつきましても年次計画を立てまして実施してまいりたいと考えているところであります。平成9年から本格的な稼働をしまして、今主要箇所の改修を行っておりますので、この改修が終わればまた同じくらいもつのではないかなと考えているところであります。

○蒲生光男委員長 4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 そうしますと、平成9

年から稼働ですから、12年ぐらいになるんですかね、11年、12年。あと緊急緊急がずっと続くというのもだましまし使っているというのがよくわかるんですけど、そうしますとあと10年ぐらいは今そういう補修すればもつだろうと、こういうお話にとらえていいんだと思いますが、結局ああいう設備、多分全国的にも初めてああいう装置つくりましたよね、あそこは。同じようなところはありますか、今度部品が同じようなのありませんよとなると、全く変えなきゃいけないという、大規模改修あるいは新規設備更新という時期がいずれ来るわけです。10年もつかどうかというのはわかりませんが、そうすると国の補助を受けられるというのはなかなかないですよ、そのときは国の補助で建てたんでしょうけど。そういうところから考えると、非常にこのコンポストセンターというのは難しいのかなというふうに、難しい判断迫られるのではないかなと思いますが、それらについて当面はもつというお話ですからそれはいいんですけれども、こういうものをどういうふうにしていくかというのは非常に難しい問題だと思えますけれども、その辺についてはどのようにお考えか、農林課長にお伺いをしたいと思います。

○蒲生光男委員長 遠藤正明農林課長。

○遠藤正明農林課長 お答えいたします。

これは大きな一つの判断になるかと思うので、担当課としての考え方を申し上げさせていただきますと思います。レインボープランにつきましては、市民に定着している地域循環システムとして維持されておりまして、ごみ焼却処理料の件、そして環境保全型農業の推進に一定の役割を果たしているというようなことであります。

したがって、今の現状が大きく変わらない状況の場合につきましては、やはり担当課といたしまして補助事業なり起債事業なりにのせ

るようにして、改修費の財源確保に努めながら修繕対応を続けていくというようなことで考えているところであります。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 非常にその判断というのは難しくなるとないかなというふうには実は私は思っています、これからどうするか、ぜひ十分検討いただきたいと思えます。

時間もあと10分ぐらいですか。

○蒲生光男委員長 8分です。

○4番 大道寺 信委員 8分。実は3点目、これが一番私お聞きしたかったことなんで、じゃあ8分あるそうですからぱっとやりたいと思います。これは臭気対策、臭気というよりも悪臭というふうに言いたいと思うんですけども、それを早急に行うべきではないかということなんです。これについては、以前からこの問題出ておりまして、コンポストセンター建設時からいろいろ出ている問題です。私は議員に初当選して最初の課題がこれだったものですから、建設の地区との約束の豚舎移転なんていうのは、一番先にこれ地元からの強い要望がありまして、当時の市長の決断で実現したというようなことを覚えていますが、しかしその後もこの臭気の問題に対する改善要望というのはずっと引き続き出されているんです。

とりわけ夏場は、実は風向きが変わってくるものですから住宅の方にはずっとにおいが来るということで、今は農林課所管ですけども、昨年までは企画調整課ですよ。2年ぐらい前に五十川区の皆さんと当時の担当課長を含めて視察をしていただきながら、臭気対策をぜひやってほしいと、こういうふうに申し上げてきたんです。しかし、残念ながら有効な対策というのはなかなか打たれていないというのが現実の姿です。

そこで、まずどういう対策をしてきたのかという、引き継ぎがあったかどうかなんです、

+

それについて農林課長にお聞きをしたいと思
います。

○蒲生光男委員長 遠藤正明農林課長。

○遠藤正明農林課長 お答えいたします。

これまでどのような対策を行ってきたのかと
いうようなことでありますが、この臭気対策に
つきましては、種々の検討及び対策が行われて
いるというふう引き継ぎを受けているところ
であります。主な対策といたしましては、平成
18年度におきます土壌脱臭装置の土の入れかえ
及び吸着剤の混合工事がございます。一次、二
次発酵槽における臭気を土壌脱臭装置により土
壌に含まれる微生物の力をかりまして脱臭して
いるわけでありまして、その再活性化を
図ってきたというようなところであります。

そのほか、三次発酵槽における発酵促進のた
め、従来発酵により出る廃液を利用して発酵促
進を行ってきておりましたが、悪臭が激しいた
め、処理水にかえてきているというようなと
ころであります。そのほかさまざまあるわけ
でありますけれども、そういったこと、大きな点
につきましてはそういったものについて引き継ぎ
を受けてきているという状況であります。以上
でございます。

○蒲生光男委員長 4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 いろいろ打たれている
んですが、土壌脱臭のところはそれやったとい
うお話聞いているんですが、なかなかそれでも
消えないというのが現実です。

今度は臭気対策について、EM菌による対策
が有効ではないかという声があります。EM菌
を使ったやつについては、以前は谷口栄子議員
が議会で質問しています。そのときはいわゆる
川とかの浄化ですね、これがメインだったと思
いますけれども、さらに議員の中には、蒲生吉
夫委員はこのEM菌によるいろんなことを実践
しておられますし、我妻委員も実践されてい
ると、こういうふう聞いています。私はそんな

に詳しくありませんので、蒲生吉夫委員や我妻
委員の方からいろいろお聞きをしたり、本当は
そちらの方から質問してもらった方がいいかも
しれませんけれども、実際この臭気の問題では、
南陽市の笹養豚場、笹さんという方、EM菌使
って実績を上げられているというふうにお話を
聞いています。非常に行ってもおいがしない
というところまでやっておられるようすけれ
ども、そういうものを要は検討してみてもどう
かと。いろんなことがあってなかなかレインボ
ー推進協議会あたりはそれはだめだみたいなこ
とを言ってるようなんですけれども、この際、
いろいろ長年こういう臭気問題が出ている、ず
っと継続していますし、米沢では悪臭問題で非
常に大きな今問題になっているようすね、こ
の間新聞にも出ていましたけれども。そういう
ことに検討してみてもどうかと、こういうふう
に思いますけれども、いかがでしょうか、農林
課長にお聞きをいたします。

○蒲生光男委員長 遠藤正明農林課長。

○遠藤正明農林課長 お答えいたします。

EM菌による臭気対策というようなことでご
ざいますけれども、このEM菌につきましては、
資料によりますと「有効微生物群」の略称で光
合成細菌群あるいは乳酸菌群などが含まれてい
るということでもあります。近年、置賜地域でも
養豚業者などEM菌の使用によりまして悪臭対
策及び良質の堆肥づくりが目指されているとい
うようなことでありますので、情報収集に努め
てまいりたいと考えております。

なお、そのレインボープランの発酵に関しま
しては、土着菌を利用しているというふう聞
いておりますけれども、処理量が少なくなった
とはいえ、年間約1,500から1,600トンの大型堆
肥化施設でございますので、発酵ができなくな
るといふ事態は避けなければならないというふ
うに考えますので、この新しい菌につきまして
は慎重に考えていきたいと思っております。

なお、土壌脱臭装置によって試みる方法もあるかと思いますが、なおレインボープラン推進協議会ともよくご相談しまして対応してまいりたいと思います。

また、近くに養豚業者がございいますが、その悪臭対策をどうやっておられるのか尋ねてみたところではありますが、でき上がった堆肥には有効微生物群が多く存在しておりますので、発酵促進のため再び発酵槽に戻すというふうなことで対策をしていると。戻し堆肥処理というふうに言っておりますけれども、その量につきましても新しい畜ふんの2分の1相当くらいの量を入れていたというふうなことでありました。

レインボープランにおきましても戻し堆肥処理というのを行っておりますが、現在コンベアが故障しておりますので、バケットで畜ふん投入口から入れている状況でございます。こういった、したがって十分な戻し堆肥の量が確保できてない可能性もございまして、そういった点につきましても早急に改修なり対策を行ってまいりたいと考えているところでございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、大道寺 信委員。

○4番 大道寺 信委員 終わりますけれども、確かにレインボープラン、これはすばらしいというふうには評価を受けながらも、一方では悪臭に苦しんでいるというのはずっと苦しんでいる人いるわけですから、ぜひそれはもちろんさっきあったようにコンポストセンターでつくるものに対して影響を与えるというのであれば問題ありますけれども、そこはやっぱりきちっと検証しながら、実験しながら進めていかなきゃいけないのではないかと私は思います。ぜひ引き続き検討いただきますようお願い申し上げます、私の方からの質問を終わりたいと思います。ありがとうございました。

○蒲生光男委員長 以上で通告による総括質疑は終わりました。

これより各会計補正予算案の細部審査に入ります。

なお、質疑に当たっては、答弁者並びにページ数をお示しの上、お願いいたします。

議案第68号 平成21年度長井市 一般会計補正予算第3号についての 質疑

○蒲生光男委員長 まず、議案第68号 平成21年度長井市一般会計補正予算第3号の1件について、ご質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○蒲生光男委員長 質疑もないので、質疑を終結いたします。

議案第69号 平成21年度長井市 介護保険特別会計補正予算第1号に ついての質疑

○蒲生光男委員長 次に、議案第69号 平成21年度長井市介護保険特別会計補正予算第1号の1件について、ご質疑ございませんか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○蒲生光男委員長 質疑もないので、質疑を終結いたします。

以上で各会計補正予算案に対する質疑は全部終了いたしました。

平成21年度長井市各会計補正予算 案の表決

+